

おわりに

本報告書は、『「主体的・協働的な学び」を实践できる教員の養成 —アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発—』プロジェクト6年目の活動報告内容をまとめたものである。最終年度となり、6年間を通じた本プロジェクトの主な実績を以下にまとめた。

(1) 本学独自のアクティブラーニングの定義を提案 (2016年度)

文部科学省のアクティブラーニングの定義(主体的、対話的、深い学びの視点)に加えて、教員養成独自の定義(教員及び教育を支援する専門職の養成としての視点)を提案した。

(2) ICT 機器貸し出しシステムの運用と学生支援員 (2017年度)

ICT 機器貸し出しシステムの本格運用が開始。これにより本学におけるAL授業の支援、推進・拡充が進んだ。また、本システムを補助する学生支援員にとっては、ICT 機器の活用を学び、将来、教育現場でICT 機器を活用した授業の実践練習をすることにつながった。

(3) 本学シラバスにおけるAL授業実施のチェック欄の導入 (2018年度)

学生に対してAL授業の周知を行うため、それまでには無かった本学シラバスの授業回毎のAL授業有無のチェック欄の導入を提案し導入された。

(4) AL ルームの開設 (2020年度)

研究員が中心となり、AL 授業に関して教員や学生たちからの相談を受けている。また、本学学生に向けた「小学校プログラミング講習会」や「GIGA スクール構想に関連したアプリ体験」などを開催している。

(5) 本学卒業生に対するAL授業アンケート調査 (2021年度)

現職教員の卒業生に向けて、大規模なアンケート調査(1042人中362人が回答、回答率34.7%)を実施した。本学で学んだ卒業生たちが教育現場でどのようにAL 授業を実践しているかを調査した貴重なデータとなるであろう。

6年間、プロジェクトの活動に関わったすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

プロジェクトメンバー代表
伊東 正人